

令和7年度（第64回）農林水産祭むらづくり部門受賞団体の概要 【農林水産大臣賞】

1 受賞団体：石原自治区〔広島県三次市〕（会長 宮本 正和）

2 むらづくりの背景・動機

石原自治区は、総人口182人で、三次市の中心部から北に約10km離れた標高200～330mの山間農業地域に位置。

昭和55年、地域の団結と集落の賑わいづくりのため、若者有志による「石原こぶし会」が設立。平成12年度から中山間地域等直接支払制度、平成19年度から多面的機能支払制度の活動を開始。

令和4年度には農村RM0事業に着手し、将来の石原集落についてのアンケートや小集落ごとの懇談会、地域の小学生とのワークショップを通じて、幅広い意見を集め、住民が一丸となれる「石原集落地域将来ビジョン」を策定。ビジョンは、「みんなでワッショイ！住みよい石原」をスローガンに、「くらしづくり」「ひとづくり」「しごとづくり」「かんきょうづくり」の4本柱に沿って目標や活動を定めたもので、住民全体で協力して戦略的に推進している。

3 むらづくりの内容

（1）生産面における取組状況

農業生産基盤整備を契機に、農業法人等を中心に水稻に加え、アスパラガス、もち麦等の栽培を開始。人手を要するアスパラガスの収穫作業には、社会参加が苦手な方、地区内の女性、熟年退職者など多様な人材が参加し、農業労働力確保と地域住民の生きがいに貢献している。

多面的機能支払制度を活用して、畦畔草刈り作業の軽減のため、センチピードグラスによる被覆の試行や、経験豊かな熟年世代を中心に住民が一体で鳥獣被害防止柵や捕獲用箱罠の設置・管理を実施し、営農環境の改善にも貢献している。

（2）生活改善の取組状況

多様な関係機関と連携・協力し、集落の小学生によるサツマイモや有機米の栽培・販売体験、市内外の住民を対象としたアスパラガスの収穫体験、近隣地域と連携して集落住民が一体となって準備・開催する「ひまわりまつり」、集落の子供たちと取り組む「ホテルの舞う里づくり」といった地域資源を活用した取組で住民間の交流を促進。幅広い世代間の交流を通じて、地域の一体感の醸成や、遠慮なくものが言える雰囲気づくり、住みやすく子育てしやすい環境づくりに貢献し、U・Iターンも実現している。

「石原ひまわり会」は“女性が動けば地域が変わる”をテーマに、遊休農地を共同で利用し、野菜の生産や出荷、加工品づくり、鳥獣被害防止柵の設置に取り組み、楽しみながら耕作放棄地の活用に貢献している。